

2025年
11月1日
第501号



JR東海労

<http://jrtoukairou.sakura.ne.jp/>



〒100-0005 東京都千代田区丸の内3-6-5

TEL 03-3201-0350 FAX 3201-0351

Eメール jrtoukairou@yahoo.co.jp

J R 東海労働組合

発行人 淵上 利和
編集人 高山 浩

J R S E の労働者と 共に闘うぞ！ J E 労 結 成 ！

9月7日、J R 東海新幹線エンジニアリング（J R S E）大阪支社に出向している新幹線関西本線の仲間たちは、共に働く労働者と共に、J R S E 労働組合（略称「J E 労」）を結成しました。J E 労は、一昨年に結成されたJ S 労に引き続き、関係会社において結成された労働組合です。J E 労は10月17日、J R S E 大阪支社長に「J R S E 労働組合結成」を通知しました。



連帯挨拶として、J R ひがし松山下委員長は「地域別での活動などを通じて、組織が強化されている。目指すべき組合像は同じ。今後ますます連帯を強化する」と述べました。そして、J R ひがし松の仲間たちから、津崎裁判の原告に檄

J R 東海労は10月15日、都内で「すべての労働者と連帯しJ R 東海労の未来をつくり出す10・15集会」を開催し、80名が参加しました。淵上委員長は、主催者

すべての労働者と連帯し J R 東海労の未来をつくり出そう！ 多くの仲間を結集し集会を開催

をいただきました。続いて敬松塾（けいしゅうじゅく）田中塾長は「昔、J R の出向者は出向先で賃金の話ができなかった。そんな現状を打破するためにJ S 労を結成した。J S 労結成を否定したJ R 総連、支持したのがJ R ひがし松である。足を引っ張ることは許さない。来年、敬松塾の集会を行う」と述べました。

労働条件改善に向けた闘いの報告では、名古屋地本松山委員長と医療職場で6月に加入した組合員、新幹線地本佐藤組織部長が報告しました。松山委員長及び新組合員は、医療職場の闘いとして「7月28日に申入書を送り、すぐに職場で改善の動きがあった。法人は色々と対応せざるを得なかった。会社相手の裁判などを闘うJ R 東海労からの申し入れに驚いたでしょう。これまでの積み重ねがここにも活かされてきた。そこからの管理者の改善に向けての行動はめまぐるしく、今までにない程の速い対応で、『かなり慌てているな』という印象であった。9月1日、組合の先輩方と共に

初回の団交に参加させてもらった。早め出勤強要の取り止め、マニュアルの整備の前進、熱中症対策では、扇風機や冷風扇の設置、他衛生面での改善が確認できた。職場では低賃金で賃上げも十分にできておらず、退職者が続出している。ケアスタッフの半数近くが外国人労働者（外国人実習生）である。これ以上、人手不足とならないように要求していききたい。更なる拡大を目指し、未組織労働者の結集を呼びかけ、連帯を広めていきたい」と報告しました。



令和7年（行コ）第15号不当労働行為救済命令申立棄却命令取消請求控訴事件（通称「診断書強要行政訴訟控訴審」）、控

団交拒否は不当労働行為と認定！ 診断書強要行政訴訟控訴審勝利判決！

長は、出向先・シムツクスにおける闘いの報告として「団交での議論は、当務長の引き継ぎ時間の問題、パワハラ問題、健康診断に関わる交通費の問題などであった。思ったのは『J R はいいいな』である。恵まれているのは、先輩方が闘って勝ち取ってきたものだ」と再認識した。声を上げ続けなければ会社は労働条件を改善してくる」と報告しました。

訴人…国（中労委）、参加人…J R 東海（の判決が10月8日、東京高裁で出されました。J R 東海労の主張を全面的に支持する画期的な勝利判決でした。会社はこの間、組合の団交開催の申し入れについて、基本協約第250条を盾に、団交事項に該当しないとして、団交開催を拒否してきました。今判決は、組合の申し入れが義務的団交に該当するという一審判決を支持した上で、更に、組合の申し入れ自体が基本協約第250条の所定項目に

現のためにストライキを闘い抜き、要求を勝ち取るまでの経過や成果と教訓、今なお組織拡大を勝ち取っていることなど、闘いの報告を受けました。本橋書記長は「講演は、労働者の連帯がいかに大切であるか、また連帯を強化し、組織強化・拡大を勝ち取るための苦闘を我がものとし、組織強化・拡大に結び付けていくための大きな教訓である。J R ひがし松、回転寿司ユニオンの仲間と共に、全力で闘いをつくり出す」とまとめ、集会は成功裡に終了しました。

【判決の解説は2面】

恣意的解釈を糾した高裁判決

判決文の要点

東京高裁が判断した診断書強要行政訴訟控訴審の内容を解説します。

協約を盾に義務的団交は拒否できない！

判決文は「当裁判所も、参加人（JR東海）が本件団交申入れ各団交申入れに応じなかったことについて、労組法7条2号に言う『正当な理由』はなく、これらの団交拒否は不当労働行為に当たると、言い切っています。会社は、これまでJR東海労の申し入れに対して、「付議事項に当たらない」として、基本協約第250条を盾に団交開催を拒否してきました。今判決により、正当な理由がない限り組合が要求した団交開催に応じなければなりません。」

JR東海労の申し入れは基本協約の定めにも合致

判決文は、基本協約によつて義務的団交を排除できないとしながら、更に「本件各団交申入れについては、論理的に、本件団交事項を基本協約250条所定の事項に加えるべきであるということについて、の申し入れを含むものと解されるから、本件団交事項については、同上が定める『この協約の改訂に関する事項』にあたる」と認めています。そして、JR東海労の申し入れは、基本協約250条の「(6)この協約の改訂に関する事項」に該当すると認定しました。つまり、会社は基本協約を恣意的解釈していたことになりました。

年休が欠勤ではないことは世間の常識！
就業規則では「病欠」や「病気休暇」の「欠勤」では診断書の提出が定められていますが、年休は「欠勤」ではないため提出は不要です。しかし、会社はこの間「欠勤」として正規の労働時間の全部又は一部を欠くもので年休も含まれる」と主張してきました。

判決文には、「なお、

当該解釈自体は、『欠勤』という語の一般の用例に反し、基本協約等の各該当規定の文理にも沿わないといえる」と記載されており、「欠勤に年休が含まれる」というJR東海の解釈は誤りであると、痛烈に批判しています。そして、会社の解釈を、人事部勤務課は説明しない姿勢を貫いていると認定しました。

窓口折衝は労使慣行ではない

会社は、「これまで問題が発生したときは、窓口折衝をして解決に向けて議論することが労使間の慣行になっていた」と、あたかも幹事間折衝で説明を尽くしているような主張をしていました。

判決は、会社側窓口が「基本協約等の『欠勤』に年休が含まれる」という会社の解釈の論拠、以前の解釈からの変遷の理由を指摘しています。

団交拒否のための協約条文は変えよ！

高裁判決を受けて申し入れ！

診断書強要行政訴訟控訴審の勝利判決を受け、本部は10月14日、労働協約の団交事項の条文を糾すため、東京高等裁判所の「判決」に基づく申し入れ（『申第9号』）を提出しました。



やその合理性等を説明することはなかった。」と指摘し、更に「現在では『欠勤』の中には年休が含まれる」と解釈しており、そのことに尽きる旨を述べるとどめ、その論拠等を説明することはなかった。」と、会社が論拠を説明しなかったと認定しました。そして、「団交と同程度の実質的な協議が行われたものとみることはできない」と指摘しています。

①10月8日の東京高等裁判所からの「判決」について見解を明らかにすること。
②2019年7月16日付けの東京都労働委員会命令にある、各所への謝罪文掲示を早急に履行すること。
③会社は今回の判決に

鑑み、組合からの団体交渉請求に対しては、早急に全て団体交渉を開催すること。

④労働協約第39条（基本協約第250条）の条文について、(1)から(4)での「の基準」、(6)での「の改訂」をそれぞれ

満額回答目指し闘う！ 年末手当交渉スタート

本部は9月29日、2025年度年末手当に関する申し入れ（『申第8号』）を提出しました。

要求は、①基準内賃金と補償措置額の3.5ヶ月分、プラス1人15万円（万博手当5万円含む）、更に、専任社員にはプラス10万円（万博手当5万円含む）。②組合員に対し、不当な年末手当のカットをやめること。③回答は11月5日（水）までに行うこと。④支払いは12月1日（月）までに行うこと、です。

第1回団交は、10月23日に開催し、労使双方が趣旨説明を行いました。組合の趣旨説明（概要）は、以下の通りです。

会社は単体で令和8年第1四半期、営業収益4,015億円を発表した。令和7年第1四半期で3,626億円だったことから最高益に近づく。訪日外国人数の1月〜9

れ削除すること。また、(7)として「労働組合からの申し入れがあった場合」の項目を加えること。

⑤会社は今回の判決を真摯に受け止め、労使の信義則違反を猛省し、この間の労使交渉において

「会社はこれまで不当労働行為は行っていない」との発言を撤回し、謝罪すること。

⑥東京高等裁判所の「判決」を真摯に受け止め、会社と国は上告等の法的措置を行わないこと。

月の累計は、前年同期比17.7%増の3,165万人と発表されている。インバウンドの好調や大阪・関西万博輸送で、経営状況は大幅に改善した。増益は現場の社員の計り知れない苦勞・努力

社員に利益を還元することは当たり前である。年末手当を低額に抑制することは認められない。社員なくして会社の存在などあり得ない。会社は満額回答すること。

JRひがし労の仲間と 共に磐梯山登頂 第28回登山大会



JR東海労は10月2日（3日）、福島県会津磐梯山で第28回登山大会を開催し、JRひがし労の仲間も含め30人が参加しました。

初日はロッジで交流会を開催し、仲間との懇親を深めました。翌日、1,816mの磐梯山山頂を目指し、全員で登頂しました。